

commencer à inf. と se mettre à inf. の意味的差異に関する 考察

佐々木 幸太

はじめに

本稿は、日本語とフランス語の始動表現の対照研究の一環である。

本稿の目的は、se mettre à inf と commencer à inf のそれぞれの働きを明らかにすることである。両者の意味的な差異に関する先行研究の中でも代表的なものとして、Franckel(1989) (以下 F) が挙げられる。F は後の研究に大きな影響を与えている。しかしながら、se mettre à inf と commencer à inf に関する記述は非常に短く、あいまいな部分がある。

そこで本稿では、まず F の記述を概観し、あいまいな部分を指摘する。その後、se mettre à inf. と commencer à inf. に関する仮説を示し、F の説明では不十分であった問題の解決を目指す。

また、本稿で示す発話例のうち出典の記載がないものは、実例の一部を必要に応じて簡略化するなどしたものである。

1. 先行研究

1.1. Franckel(1989)の概観

1.1.1. se mettre à P⁽¹⁾

F によれば、se mettre à P は、時間軸上に構築された事行 P の最初の点を表すために用いられる。se mettre à P は、予見や意図などの主観を排除し、事行 P が突発的に現れたことを表す。このような特徴から、soudain や brusquement の

ような突発性を表す副詞句は, *se mettre à* と相性がよいとしている.

また, *se mettre à P* を用いる場合, 事行 *P* の事行主体は, 事行主体であると同時に事行客体でもある (p.143)

さらに, 事行 *P* が構築されていない限り *se mettre à P* を用いることができないため, 通常否定形で用いられることはほぼ不可能である. 用いられるとすれば, それは「(il est faux que) je me suis mis à manger」というように, 事行 *P* が構築されたという情報を訂正する場面に限られる⁽²⁾. (p.144)

se mettre à P は構築された事行 *P* の最初の点を指すが, 事行 *P* のその他の点を前もって想定することはない.

1.1.2. commencer à P

F によれば, *commencer à P* は *pas encore P* の段階が終わり, 事行 *P* が実現することを表す. F は *commencer à P* の二つの解釈を紹介している.

(1) Ça commence à chauffer. (p.146)

まず, (1)の *chauffer* が「温度の上昇」を指す場合, *commencer à P* は事行主体が事行 *P* を実現させることを表す. *se mettre à P* を用いた場合とは異なり, 事行 *P* が予め想定されている場合に用いられる. この場合 *pas encore P* とは, 想定されている事行 *P* がまだ実現していない段階を指す.

次に, *chauffer* が「(会場の雰囲気などが) 盛り上がる」ことを指す場合, 事行 *P* が実現することではなく, *vraiment chauffer* という新たな段階に達することを表す. このとき, *vraiment chauffer* という新たな段階に達するまでに *pas vraiment chauffer* という進展的な段階が存在していたことを表す⁽³⁾.

commencer à P を用いた場合は, *se mettre à P* と比べ, 穏やかな開始である印象を与える. (p.147)

1.2. F(1989)で明らかでない点

F の指摘は非常に興味深い. しかし, 問題がないわけではない.

まず, F は *se mettre à P* が, 想定していなかった事行 *P* の突発的な生起を表す

としている。しかし、誰が前もって事行 P を想定するのがはっきりと述べていない。

また *se mettre à P* は事行 P の実現を前もって想定することがないため、否定文で用いることはほぼ不可能であるという。しかし、谷口(1991)や、Saunier(1999)の指摘にもあるように、*se mettre à P* は、*ne pas encore se mettre à P* の形であれば否定形であっても許容しやすくなる。

(2) Claude **ne s'est pas encore mis(e)** à rédiger son texte. (Saunier 1999 : 278)

(3) ? Je **ne me suis pas encore mis à manger**.⁽⁴⁾ (谷口 1991 : 142)

(2)と(3)は、事行 P が生起していない段階の発話である。発話の時点で話し手は事行 P の生起を想定していることがうかがえる。*se mettre à P* に関して、F は「予見や意図といった主観を排除して、事行 P が突発的に生起することを表す」と述べている。では、話し手が事行 P の生起を予見していると思われる(2)や(3)の発話面で、なぜ *se mettre à P* が用いられているのだろうか。

また、*commencer à P* については、事行 P が前もって生起することが想定されている段階から、想定された事行 P が実現することを表すという⁽⁵⁾。しかし、実例を観察すると(4)のように、突発的で想定外の事行の開始を述べている場合もある。

(4) Soudain, les Anglais **ont commencé à faire attention à ce qu'ils mangent**.

(Le Monde, 27/08/2003)

(4)は、狂牛病に対するイギリス人の対応を肉屋が述べたものである。

狂牛病問題が生じると同時に、突然イギリス人が自分たちの食べるものに気を配り始めたことを述べている。P(=*faire attention à ce qu'ils mangent*)はこの時点で開始する事行である。*commencer à P* は想定していた事行が実現することを表すので、肉屋（またはイギリス人）は、P を想定していたということになる。しかし、事行 P の開始は突発的であり、前もって想定された事行ではない。つまり、「まだ起こっていない」という段階が終了し、事行 P が実現することを表すという説明は、この場合十分であるとは言えない。

他方、F は、se mettre à P が意図性を表すことができないとも指摘している。faire attention à ce qu'ils mangent が意図的に開始された行為であるため、se mettre à P を避け commencer à P が用いられた可能性がある。しかし、谷口も指摘するように、se mettre à P は、ある目的のために意図的に開始した行為に対して用いることも不可能ではない。

(5) Pour acheter une voiture, il **s'est mis** à travailler encore plus. (谷口 : 143)

このように、se mettre à P と commencer à P の意味的差異を比較する際、予め想定されている事行であるかどうか、または意図的な開始であるかといった説明は必ずしも適切であるとはいえない。

このような問題を解決するべく、本稿では se mettre à P と commencer à P の意味的差異に関する仮説を示す。そしてその際、それぞれの表現を用いる場合に、話し手が事行 P をどのように捉えているかに着目する。また F は commencer à P の働きとして、進展的な段階が終了し、新たな段階へと達することを表す場合もあるとしている。本稿では、こうした commencer à P の働きを考慮しつつも、commencer à P の働きに関する一元的な説明を目指す。

2. 仮説

se mettre à P と commencer à P は、同じ場面を描写する際に、言い換えが可能な場合がある。

(6) A ce moment là, il a pris le livre. Puis il {**s'est mis** / **a commencé**} à le lire.

この時話し手は se mettre à P と commencer à P のどちらかを選択することで、事行 P の開始をどのように聞き手に伝えようとしているのだろうか。

2.1. se mettre à P

話し手が動詞句を用いて事行を表そうとする時、(7)のように事行が存在しているか否かを問題とする場合がある。

(7) Non, mais attends... Tu *pleures*, ou quoi ?

このように話し手が事行の有無に着目している場合、図 1 のように表すこ

とができる。

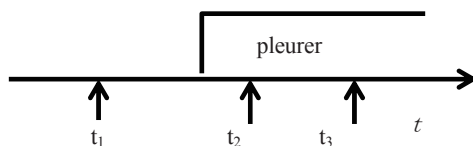


図 1：行為・現象の存在／不在を捉える場合

t_1 の時点では *pleurer* という行為は存在しない。しかし、 t_2 や t_3 の時点では *pleurer* という行為が存在する。話し手は *pleurer* の進展具合や、*pleurer* がどのような展開をするかは問題とせず、*pleurer* という行為が存在するか否かを意識している。

谷口(1991)は、*se mettre* の原義について「<ある場所に身を置く>ことであろう」(谷口：144)と述べている。谷口の言う通り、*se mettre* とはある場所からある場所への移行を表す表現であろう。*se mettre à P* も事行主体が事行 P に身を移すことを表していると考えられる。そして、この事行 P への移行が始動と捉えられるのである。図示すると図 2 のように表すことができる。

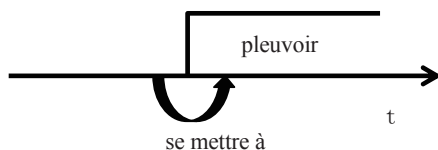


図 2：se mettre à P

この場合話し手が伝えたいのは、事行主体が事行 P を行う状態へと移行することである。そのため、*se mettre à P* を用いた場合、話し手は事行 P の展開を意識するのではなく、事行 P の有無を意識する。

(8) « Tu joues à la poupée? » elle m'a demandé Louissette, et puis elle **s'est mise**

à rire. (Goscinny, R. 1960, *Le Petit Nicolas*)

- (9) À l'aube, il **se mit** à *pleuvoir*. Bientôt, c'est une pluie battante qui enveloppa d'un voile gris la longue et large vallée[...].

(Cornwell, B. 2001, *Le Rois de l'Hiver*)

(8)では、事行主体が *rire* という行為を行う状態に移行すること、つまり *rire* という行為が出現したことを、話し手は伝えようとしている。(9)のような非人称文では、*pleuvoir* という現象が出現することを表す。

このように *se mettre à P* は、事行 *P* の展開ではなく、事行 *P* の有無を意識し、事行 *P* の出現を表す。

2.2. commencer à P

2.2.1. commencer à と話し手が捉えている事態

話し手は、常に事行が行われているか否かにのみ注意を払うとは限らない。

- (10) *J'ai commencé à lire le livre que je dois terminer pour la rentrée.*

lire という事行には始まりがあり終わりがあある。そして、開始と終了の間には様々な展開が存在する。(10)で、話し手は行為全体を一つの事態として捉え、*lire* という動詞句を用いてその事態を表している。図示するとすれば、図3のように表すことができる。

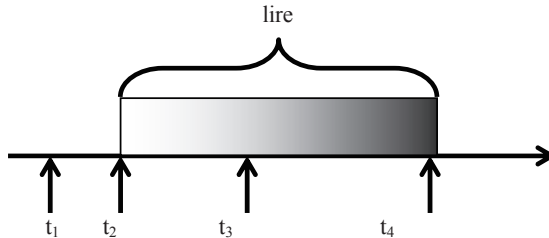


図 3：事行を一つの事態と捉える場合

話し手が lire 全体を意識している場合、 t_2 は lire という行為が出現した時点だが、lire という事態全体からみれば、lire という事態の開始時点でもある。同様に t_4 は lire が終了する時点であり、 t_3 は展開中の lire に属する時点となる。 t_1 の時点は、lire という行為はただ存在しないだけでなく、話し手にとっては lire という事態に属していない時点であることが重要となる。

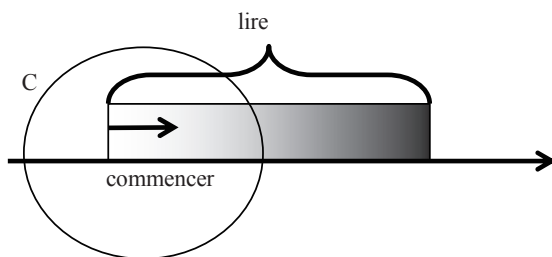


図 4 : commencer à P

lire という事態が開始することを表す場合、commencer à P が用いられる。しかし話し手は、開始の時点で事態の全容を把握している必要はない。(10)では、(11)のように、終了時点が明らかな場合であっても commencer à P を用いることはできる。

(11) Il **commence** à *pleuvoir sérieusement* là, hein !

(Rohmer, E. 1987, *Quatre aventures de Reinette et Mirabelle*)

(11)では、発話の時点でも展開している pleuvoir という事態の開始を commencer à P を用いて表している。このとき、話し手が pleuvoir の終了時点把握している必要はない。たとえば、図4で話し手の認識を円 C で表すとする。開始の時点で話し手が生起した現象を見て「pleuvoir という事態が開始した」と認識できれば、commencer à を用いて pleuvoir の開始を述べるができるようになる。

2.2.2. 話し手が捉えている事態と事態の開始

commencer à を lire などの行為や現象を表す動詞句と用いた場合、話し手が捉えている事態の開始は、事行が出現する時点と同時であることが多い。

(12) **J'ai commencé à lire des livres et des documents** sur la réalité philippine.

(*Le Monde diplomatique*, mars 1984 : 15)

(12)で、話し手が捉えている lire という事態は、lire という行為が出現してから終了するまでである。この場合 lire という事態は、lire という行いが出現すると同時に開始する。このように commencer à を行為や現象を表す動詞句と用いた場合は、事行 P の出現と事態の開始は同時であることが多い。しかし、(13)の場合は、話し手にとって lire le livre という事態はただ本を読むということではない。

(13) **Après une centaine de pages, j'ai commencé à lire vraiment le livre.**

ここでは、話し手の中に lire le livre が本格化するという段階が存在する。そして、その段階に達していない限り、仮に客観的には lire という行為が行われていたとしても、それは話し手にとっての lire という事態の開始ではない。つまり、話し手が捉えている事態の開始は、常に事行の出現と同時であるとは限らないのである。

特に commencer à P を事行主体の状態を表す動詞句と共に用いた場合、事態が開始したかどうかの認定は話し手の主観の影響を強く受ける。

(14) **Ouf... Je commence à être fatigué, mais il faut tenir... !**

(15) **Je commence à en avoir marre. Si ça continue, je vais craquer !**

(14)や(15)のように、commencer à を状態を表す動詞句と用いる場合、動詞句が表す状態を進展性をもったものとして捉えている。

図示するならば図5のようになる。

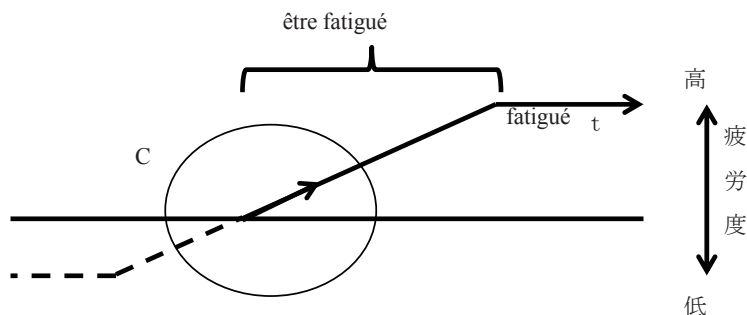


図 5 : commencer à être fatigué

横軸を時間の流れとして、縦軸を事行主体の疲労度とする。疲労度が *fatigué* のラインよりも高くなることで事行主体が *être fatigué* であると話し手が認めるものとする。

commencer à être fatigué は、*être fatigué* であると話し手が認めることの出来る状態の開始を表す。そして、どの段階を *être fatigué* であると認めるかは個人差もあるし、状況によっても変化する。また、*commencer à P* に至る前の段階であっても、当然疲労は蓄積されている。しかし、仮に疲労が蓄積されていたとしても、*être fatigué* であると話し手が認めることのできる段階に至るまでは、話し手にとっての *être fatigué* と呼べる状態は存在しないのである。

このように、*commencer à P* は、話し手が捉えている事態の開始を表す表現形式であるということが出来る。多くの場合、事行の出現と話し手の捉える事態の開始は一致する。しかし、話し手が捉えている事態の開始は、常に事行の出現と同時にであるとは限らない。

F は、*commencer à P* には、想定された事行 P が実現する場合と新しい段階に至ることを表す場合とが存在するとしている。この二通りの働きは、話し手が捉えている事態の開始を表すという *commencer à P* の特徴によるものであると考えられる。

2.3. se mettre à P と commencer à P の意味的差異

以上のように, se mettre à P と commencer à P は, 話し手が P をどのように捉えるかによって使い分けることを明らかにした.

- (16) A ce moment là, il a pris le livre. Puis il { **s'est mis / a commencé** } à le lire.

(16)で話し手は, lire le livre という行為の有無を意識して行為の出現を表す場合と, lire le livre という事態全体を意識して事態の開始を表す場合がある.

たとえば, ある時点で出現した行為が lire という行いであるということのみを話し手が伝えたいのであれば, se mettre à を用いて lire という行いの出現を表すことができる.

一方話し手が, lire le livre がどのような事態なのかをある程度把握した上で, その事態が開始したことを伝えたいのであれば commencer à lire という.

- (17) Claude { ne s'est pas encore mis(e) / n'a pas encore commencé } à rédiger son texte.

- (18) Pour acheter une voiture, il { **s'est mis / a commencé** } à travailler encore plus.

(17)や(18)のように前もって生起することが想定されている場合であっても, se mettre à と commencer à のどちらも用いることができる. 話し手が P の展開を意識せずに, 事行主体が P へと移行することだけに着目しているのであれば, se mettre à P を用いる. 逆にそれぞれの事行の有無だけではなく, 事態の展開までも意識しているような場合は, P で表される事態全体の開始を commencer à P で表すことができる.

commencer à P を用いる場合, 話し手は P がどのような事態なのかをある程度把握している.

- (19) Soudain, les Anglais **ont commencé à faire attention à ce qu'ils mangent**.

(19)は, 狂牛病でイギリス人が肉をあまり食べなくなった時のことを振り返る肉屋の発言である. 話し手である肉屋や P の事行主体であるイギリス人は, このような事態を前もって想定してはいなかった. しかしながら, インタビュー

一に答えた肉屋は、狂牛病で店の売り上げが落ちてしまうという経験をしている。その結果 P(=faire attention à ce qu'ils mangent)がどのような事態であったかを、発話の時点では十分に把握している。つまり(19)は、話し手が発話時に把握している P という事態が、突発的に開始したことを述べているのである。

F の指摘にあるように、前もって想定されていたり、意図的に開始された事行の開始を表す場合は、commencer à P が選択されやすい傾向にある。前もって想定をしているということは、どのような展開が待ち受けている事態なのかを話し手が意識していることが多い。同様に、意図して開始する行為は、どのような事態であるかを開始前に意識しているのが自然である。

ただし、仮に生起することが前もって想定されている場合や、意図的に開始する行為であったとしても、話し手が事行の出現のみを想定している場合もある。話し手が事態全体を意識していないのであれば、se mettre à P を用いて事行の出現のみを表すことも可能なのである。

おわりに

本稿では、「話し手の事行 P の捉え方」が commencer à P と se mettre à P の使い分けに及ぼす影響に着目して、commencer à P と se mettre à P の意味的差異の分析を行った。その中で F の指摘にある想定や意図性がそれぞれの表現の意味的特徴に由来していることを述べた。

話し手が se mettre à P を用いるのは、事行が存在するか否かを意識する場合である。話し手は、事行主体が事行 P に移行することを伝え、その結果事行 P の出現を表すことができる。

一方、話し手が commencer à P を用いるのは、P が表す事態全体を意識する場合である。この場合話し手は、事行主体がその事態を開始することを伝える。

想定されていた事行や意図的に開始した事行は、その展開を話し手が意識している場合が多く、commencer à P が用いられることが多い。しかし、事行の出現のみを話し手が意識しているのであれば se mettre à P を用いることも不自然ではない。

今後は、コーパスデータなどを用いて、仮説の妥当性を確かめていくと共に、本稿で取り扱うことができなかった **commencer de P** を分析する。

註

1. F の記述では、P は動詞句を表すために用いられている。ここでは F に従い P と記述する。
2. ただし、se mettre à N を用いた場合は、既に行われたことのある出来事を再開するという意味で用いられる。se mettre à P とは異なり、se mettre à dét N はある過程の再開を表す。そのため、否定文で用いることが可能である。このことから、F は se mettre à P と se mettre à N を区別する必要があると強調している(pp.142, 144)
3. être là や être parti のような動詞句は、「時間軸上に事行 P が構築しているかいないか」しか問題にすることができない。この場合、pas encore P は進展的な状態を表すことができない。そのため、F はこれらの動詞句と commencer à P を用いることができないとしている。(p.147)
4. 例文の ? は谷口の判断に従った。
5. F は commencer à P が時間軸上で事行 P が構築された点を表す場合、想定された事行(attendu, prévisible)であると説明している。

<主要参考文献>

- Cadiot, P. (1997) : *Les prépositions abstraites en français*, Armand Colin, Paris.
- Camus, R. (2004) : « Quelques aspects de commencer », *Variation sémantique et syntaxique des unités lexicales : étude de six verbes français*, LINX, Université Paris X.
- Franckel, J.-J. (1989) : *Etude de quelques marqueurs aspectuels du français*, Librairie Droz, pp.142-147.
- Laveaux, J.-C. (1822) : *Dictionnaire raisonné des difficultés de la langue française*, Hachette, Paris.
- 安達博明 (2004) 「commencer à P.について」, 『人文論究』54-2, 関西学院大学人文学会.

佐藤淳一 (1994) 「se mettre à / commencer à の意味価値について」, 『フランス語研究』 28, 日本フランス語学会.

谷口千賀子 (1991) 「commencer à と se mettre à の意味的差異」, 『人文論究』 41-3, 関西学院大学人文学会.

(博士課程後期課程)